令和４年８月 26 日
教育部学校教育課

令和４年度　全国学力・学習状況調査の結果について（確定）

・令和４年度全国学力・学習状況調査の掛川市の結果について、御報告します。

１　調査の概要

(1)実 施 日　　令和４年４月 19 日(火)

(2)実 施 校　　市内小学校 22 校の６年生：1020 人
　　中学校　９校の３年生：1016 人

(3)実施科目　　小学校：国語、算数、理科、児童質問紙
　　中学校：国語、数学、理科、生徒質問紙

２　調査結果の公表

本市の結果等を公表することで、市民総ぐるみで成果や課題を共有し、家庭や地域の理解と協力を得て、掛川市の子どもたちを育てていきたいと考えております。なお、本調査は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部分を測定したものであり、全ての学力を表したものではありません。市全体の傾向や個々の学習状況を把握する資料の一つとして、今後の授業改善に役立てていきたいと考えています。

３　調査結果の概要

小学校では、全国との比較では、各教科ともに全国の平均正答率を上回りました。また、県との比較においても、各教科ともにほぼ同じか上回りました。

中学校では、全国との比較では、各教科ともに全国の平均正答率を２ポイントから３ポイント上回りました。また、県との比較においても、各教科ともに上回りました。

今後は、詳細な分析を行い掛川市全体の成果と課題について明らかにし、家庭向けリーフレットを公表したり、さらなる授業改善に努めたりする予定です。

４　市の平均正答率の結果

【全国・県・市の平均正答率】　※市の数値は、四捨五入で公表。

小学校	国語	算数	理科
掛川市	**66%**	**64%**	**65%**
静岡県	66.2%	62.6%	62.1%
全国	65.6%	63.2%	63.3%
中学校	国語	数学	理科
掛川市	**71%**	**55%**	**52%**
静岡県	70.1%	53.9%	51.6%
全国	69.0%	51.4%	49.3%

【全国・県の平均正答率を 100 とした場合の市の平均正答率の指標値】

小学校	国語	算数	理科
静岡県比較指標値	100	102	105
全国比較指標値	**101**	**101**	**103**
中学校	国語	数学	理科
静岡県比較指標値	101	102	101
全国比較指標値	**103**	**107**	**105**

5　全国と比較して正答率の高かった主な内容（○）と低かった主な内容（▲）　※全国比

(1)　小学校国語

○「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、□でどのように話すかを書く。

○「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する。

○【文章２】の□の部分を、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する。

▲【文章２】の中の傍線部アを、漢字を使って書き直す。(ろくが)

▲【文章２】の中の傍線部イを、漢字を使って書き直す。(はんせい)

(2)　小学校算数

○14 と 21 の最小公倍数を求める。

○分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ。

○１年生と６年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ。

▲果汁が 25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す。

▲果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。

(3)　小学校理科

○昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ。

○資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ。

○実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ。

(4)　中学校国語

○スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く。

○漢字を書く。(よろこんで)

○「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く。

○書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する。

▲「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する。

▲行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する。

(5)　中学校数学

○42 を素因数分解する。

○差が４である２つの偶数の和が、４の倍数になることの説明を完成する。

○箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ。

○証明で用いられている三角形の合同条件を書く。

▲変化の割合が２である一次関数の関係を表した表を選ぶ。

(6)　中学校理科

○上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する。

○ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する。

○考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増や

すかを説明する。
○アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する。
▲おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する。
▲「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する。

6　掛川の子どもたちの特長（主なものを抜粋）

項　目	小学校			中学校		
	掛川市	全国	**比較**	**掛川市**	全国	**比較**
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思っている児童生徒の割合	**49.6%**	46.3%	**3.3%↑**	**48.8%**	39.9%	**8.9%↑**
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると答えた児童生徒の割合	**41.3%**	35.5%	**5.8%↑**	**42.2%**	32.5%	**9.7%↑**
今住んでいる地域の行事に参加していると答えた児童生徒の割合	**44.8%**	23.4%	**21.4%↑**	**50.0%**	14.3%	**35.7%↑**
前の学年までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、ほぼ毎日使用したと答えた児童生徒の割合	**34.3%**	26.7%	**7.6%↑**	**51.1%**	21.6%	**29.5%↑**
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた児童生徒の割合	**37.9%**	37.7%	**0.2%↑**	**50.0%**	34.1%	**15.9%↑**
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると答えた児童生徒の割合	**44.5%**	42.5%	**2.0%↑**	**62.2%**	43.0%	**19.2%↑**

7　今年度中学校３年生の指標値の推移

令和元年度　小学６年の結果

	国語	算数
静岡県	100	100
全国	101	100

令和４年度　中学３年の結果

	国語	**数学**
静岡県	**101**	**102**
全国	**103**	**107**

○全国・県を上回る学力を維持すると共に、国語、数学ともに着実に力を伸ばしています。

８　正答率が高い子に見られる傾向（クロス集計より）

＜小学校・中学校共通項目＞
・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。
・自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。
・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
・新聞を読んでいる。
・読書が好き。
・授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、よく使用した。
・授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。
・授業で、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている。
・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
・学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
・算数・数学の勉強が好き。
・算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えている。
・算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
・算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。
・理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
・理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。
・理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている。
・理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。

○これらの項目に肯定的に答えた子どもたちが、国語や算数・数学、理科すべての平均正答率が高い傾向にありました。

９　調査結果から

○小学校から主体的・対話的な学びを積み上げ、中学校でさらに力を伸ばしている。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答える児童生徒の割合や、学校の様々な場面でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用した児童生徒の割合が、全国より高いです。

考えを深めたり、広げたりするために、対話的な活動や効果的なＩＣＴ活用などを取り入れ、授業改善に取り組んでいる成果であると考えられます。

○学校、家庭、地域が一体となって、子どもを育てている。

「今住んでいる地域の行事に参加している」と答える児童生徒の割合が、全国よりとても高いです。また、「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思っている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「家で学校からの課題で分からないことがあったとき，家族に聞く」と答える児童生徒の割合も、全国より高いです。

掛川ならではの『お茶の間宣言』や『中学校区学園化構想』をはじめとする、『市民総ぐるみの人づくり』が進められていることが、成果として現れていると考えられます。